

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
189	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Are overweight, obesity, and extreme obesity associated with psychopathology? Results from the national epidemiologic survey on alcohol and related conditions.</p> <p>過体重、肥満、著明な肥満は精神病理学と関連があるか？ アルコールとその関連状態のついての全国レベルの疫学研究の結果より</p>	
執筆者	
Pickering RP, Grant BF, Chou SP, Compton WM.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Clin Psychiatry. 2007 Jul;68(7):998-1009.	
キーワード	
過体重、肥満、著明な肥満、精神病理学、飲酒	
要旨	
<p>目的： 本研究では、過体重、肥満、極端な肥満と、社会人口統計学的特徴と DSM-IVの I 軸と II 軸に特化した疾患との関連について研究した。</p> <p>方法： 2001 年～2002 年にアメリカ全国レベルで一般住民の成人を対象に、43,093 人に面談してインタビューを実施した (National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions(NESARC))。</p> <p>結果： 一般的に、黒人男性、黒人女性、ヒスパニック系女性、インディアン女性、未婚または同棲していない女性、南部や中西部、農村地帯在住の人は、過体重や肥満、極端な肥満になる危険が高かった。肥満と極端な肥満の女性は双極性気分障害の中で非典型的な大うつのエピソードをもつ傾向があった。パニック障害は男性において過体重と関連した (オッズ比 (OR) =1.5)。また特定の恐怖症は女性において過体重 (OR=1.2) と肥満 (OR=1.3) と関連した。反社会的パーソナリティ障害もまた女性において、過体重 (OR=1.5) と極端な肥満 (OR=1.9) と関連した。回避型パーソナリティ障害は女性において、極端な肥満と関連した (OR=1.7)。</p> <p>結論： 女性における肥満は、双極性 I 型障害と思われる患者で、非典型的な大うつのエピソードと関連して見られる。症状がオーバーラップするため、過体重の男性におけるパニック障害は未診断の循環器疾患や II 型糖尿病等の疾患の存在を示唆しているのかもしれない。ストレスの頻回な暴露やストレスに対する脆さが、過体重や肥満の女性を特定の恐怖症にかかりやすくしているのかも知れない。精神疾患の治療ガイドラインには、共存する過体重や肥満の対処について言及する必要があるし、肥満の治療ガイドラインでは共存する精神病理についても言及する必要がある。</p>	